



JICAME 通信

JICA カメルーン事務所
2013年5月 第11号

★★ 5月の予定 ★★

【事業・事務所の動き】

事務所休日

- ・1日：メーデー
- ・3日：憲法記念日
- ・9日：キリスト昇天日
- ・20日：カメルーン統一記念日

4月9日 - 5月19日：
廃棄物管理基礎情報収集調査

4月30日 - 5月18日：
TICADV 産業人材育成調査

5月4日 - 5月6日：
矢部所長ガボン支所訪問

5月7日 - 9日：
中小企業ナショナルデー（ドゥアラ）

5月7日 - 6月9日：
TICADV 海外メディア本邦招聘（CRTV クル
ー4名）

5月14日 - 6月2日：
教育セクター基礎情報収集調査団Ⅱ

5月29日 - 30日：
JOCV 情操教育セミナー（サンメリマ）

【人の動き】

5月7日：稲場専門着任（ニヨス湖プロジ
ェクト・業務調整）

5月7日～6月4日：森健康管理員休暇

5月18日～6月8日：桑畑企画調査員休暇

【目次】

1. カメルーン・ガボン国境安全確認調査
2. 第2回ヤウンデ小学校運動会
3. カメルーン新メンバーご紹介
4. カメルーン事務所 NS 紹介

※訂正とお詫び

カメルーン国境安全確認調査

～ガボン国境陸路編～

カメルーンは、6カ国と国境を画する。文字通り「中部アフリカのだ真ん中」に位置する。その隣国はというと、経済大国ナイジェリアを筆頭に、チャド、中央アフリカ、コンゴ民、ガボン、赤道ギニア。この地理的状況下では、必然的に、国境付近の安全対策については、高い緊張を要します。

そんな中、今回、ガボン国境の緊急医療対応にかかる陸路安全確認が行われました。目的は、ガボン北部に配属の協力隊員に対する医療支援対応の可能性を見極めるということ。



カメルーン南部の Ebolowa から国境までは通行車両は思いのほか少ない印象で片側1車線の全面舗装。道路状態は見てのとおり良好。また、通信状況は、町によって電波状況は異なり、街外れはほとんど電波が消失するため、衛星携帯電話の携帯は必須。

ヤウンデからの走行時間は7時間程度であるものの、出入国や車両通行許可の行政手続きに時間がかかるため、さらに1時間～1時間半程度の余裕を見ておくことが必要である。



第6回 活動紹介 「ヤウンデ運動会 2013」

シニア海外ボランティア平成22年度4次隊

山本文子（初等教育）

1. 開会式

昨年に引き続き、山本 SV の指導の下にヤウンデ運動会が開催が実現されました。

開会式は、テノール矢部所長のリードによる国歌斉唱。大きな拍手喝さいを浴びた幕開けとなりました。

昨年度より4校増の15校、総勢1600人の児童が参加し、国立競技場付属第1競技場を借り切ったの大運動会です。これには、こちらから頼まずとも国营放送局 CRTV と、CANAL2 の TV 局が詰めかけ、TV 放映もされました！



美しい行進の様子↑

2. 運動会開催の狙いと工夫

今回の運動会開催に留意した点 ①SV 帰国後もカメルーン人自身で続けていける開催方法の伝授。②仲間と活動する喜び、秩序のある中で競い合う喜び、自身で達成する喜びを与えること、③競技のみならず、表現を種目に入れること。

成果はこのとおり。↓



また、持続可能な運動会開催に仕立て上げるに至った工夫としては、専門家による技術移転型の協力手法と相違ない点が挙げられます。

①各校運動会責任者と役割担当者を置き、事前に綿密な打ち合わせを実施。②予選・予行演習等の全てを彼らだけで行う。③種目の作成には、担任と共に音楽を聴き、動作を一緒に確かめつつ、作った。④保護者を招集し、協力を要請した。

秘訣はここにありました。

！完全全員参加型！

矢部所長による表彰授与★



朝6時からライン引きに集まった先生たち



3. 競技

お待ちかね！

各競技の様子をご覧ください、お馴染みの種目をご堪能下さい。



↑縄を操る子供



↑こちらは台風の目



↑なんと！ソーラン節♪



極めつけは「組体操」↑

展望は明るい！

カメルーンにおける幼少からの情操教育の大切さを実感した一日となりました。



協力頂いた JOCV の皆さまには本当に頭が下がります。

引き続き、JICA の活動を通じて、情操教育の大切さを伝授していきたいと思っております！

ようこそカメルーンへ！新メンバーご紹介

丸田 詠子 企画調査員 (4月9日着任)

★担当セクター：環境、民間セクター、給水、保健

★これまでの経歴：大学卒業後フランス留学 → 一旦帰国 → 在外公館派遣員として再び渡仏（足掛け6年！！）→ その後、東京でフランスのブランド会社に勤務 → ●●才を前に、人生やり直そう（？）と決断、国際協力の世界に関わり始める。2009年から JICA 関連の業務でチュニジア、中西部アフリカ、ガボンを経て現在。

★カメルーンの第1印象：5ヶ月前までガボン在勤でしたので、空港について、湿度たっぷりの空気を浴びたとたんに、帰ってきた！という感じがしました。

★今後の展望：まずはカメルーンの土地と人を理解して、出来ることなら10州制覇して、少しでもいい案件を作って行きたいと思います。プライベートでは、陸路でガボンに里帰りしてみたいです。

★趣味：ガボンで始めたテニス、食べ歩き、海岸でゴロゴロすること、街の探索 etc。

惣慶 嘉 (そうけい よしみ) 専門家 (4月27日着任)

★専門：食用作物、稲作、乾燥地農業

★これまでの経歴：1994年に佐賀大学農学部を卒業 → 大学院修士課程休学・青年海外協力隊（タンザニア・稲作）→ 1996年10月復学・同時に渡カザフスタンにて、中央アジア塩類集積土壌回復技術実証調査事業に従事 → 修士課程・博士課程の大半をカザフスタン（コルホーズ）に住み、沿アラル海域環境研究所と共に水田への過剰灌漑に起因する塩類集積土壌の回復と作物栽培について研究。2001年から2004年：JICA ジュニア専門員・その間に博士号取得。ジュニア専門員時には、中国山西省アルカリ土壌改良実証調査の栽培専門家として従事。2004年から2011：Africa Rice Center 派遣専門家として NERICA 特性調査および西アフリカの研究者育成に関わり、ギニア、ガンビア、マリ、ブルキナ、ベナンを中心に活動。2011年以降、カメルーン国熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクトの総括。

★カメルーンの第1印象：先ず、景観的な印象として、ヤウンデは坂が多いせいか変化が多く、鳥の鳴き声が多い良い所だと思いました。同時に、これまで携わってきた上述の西アフリカ5か国よりも経済的には発展しているが、マナーや道徳観、そして仕事である稲作の知識や技術レベルは他のサブサハラアフリカ諸国と同様だと感じています。また、良くも悪くも村社会が都会にも残っているとの印象を持ちました。

★今後の展望：カメルーンの中山間地小規模農家の人々に、自分たちで作ったコメをプランテーション・バナナやキャッサバなどの他の食用作物と同様に、腹一杯食べてもらい、出来れば余剰米を販売して現金収入を得られるような方をカメルーン人と考え、実践していければと考えています。

★趣味：釣り・旅行・体を動かすこと。



*お詫びと訂正

前号(10号)の編集・発行人の紹介で「マリア・キャリア」とあるのは「マライア・キャリア」の誤りですので訂正いたします。

*次号予告

帰国 JOCV5 名のご紹介 + 新着任専門家等をご紹介します。お楽しみに♪

編集・発行人 矢部 優慈郎

JICAME 通信へのお問い合わせは以下までお願いします。

お問い合わせ先：ca_oso_rep@jica.go.jp カメルーン事務所ホームページ：<http://www.jica.go.jp/cameroon/office/index.htm>

